

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年 2月 11日

【評価実施概要】

事業所番号	2270600451
法人名	有限会社 エルダーハウス
事業所名	グループホーム千草
所在地 (電話番号)	三島市徳倉3-6-16 (055-986-6022)
評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年12月15日

【情報提供票より】(平成20年11月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	11 人	常勤 6 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 7.5 人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	改築
建物構造	木造鉄筋コンクリート陸屋根造り	
	2 階建ての	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円他	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(600,000 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,800 円	

(4) 利用者の概要(平成20年11月25日現在)

利用者人数	6 名	男性	1 名	女性	5 名
要介護1	1 名	要介護2		1 名	
要介護3		要介護4		1 名	
要介護5	3 名	要支援2			
年齢	平均 84 歳	最低 76 歳	最高	93 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	広小路クリニック 田村歯科 芹沢病院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「ひとつ屋根の下で一緒に暮らしませんか。」を理念に掲げ、グループホーム千草は、既存の住宅で利用者と職員が家族的な関係で暮らしている。1ユニット6名の規模は細かなところまで目が行き届き、職員の親切な対応を含め家族から全幅の信頼を寄せられている。利用者にはその時々を楽しんでもらいたいと行事や旅行を企画し家族ともども時間を過ごし、日常では散歩や買物へのドライブ等利用者の思いを満たせるよう取り組んでいる。家族会では心療専門の協力医から講義をしていただき認知症についての理解を深め家族も対応を学んでいる。施設のことをまったく外した、管理者の思いの籠もった家庭の中で、利用者とのやり取りは昭和中和の向田作品を彷彿させる。温かなホームの雰囲気はずっと続くことを祈って止まない。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善項目、市町村との協働によるサービスの向上等前向きに取り組んでいる。食事を楽しくいただく支援については利用者の重度化に伴い介助が必要になってきたため、共に食事を頂くことはできないが、楽しい雰囲気の中での食事支援がされていた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は評価を見直しの機会として捉え、職員と共に改善に繋がるよう取り組んでいる。自己評価はすべての職員で取り組み、話し合ったものをまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者とその家族・地域包括支援センター・近隣住民・民生委員・介護相談員・在宅支援センター職員及び管理者をメンバーとして運営推進会議は2ヵ月ごとに定期的に開催されている。会議では介護保険や胃ろう、ターミナルケア等について話し合っただけで参加者から勉強になると喜ばれている。また、ホームでは参加者の話の中から沢山の知恵をいただき、それを利用者の暮らしに活かしており、運営推進会議の目的が十分果たされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	すべての家族が出席しての家族会や運営推進会議、また日常的に管理者及び職員は小まめに家族とコミュニケーションを取っており、ひとつの家族としてオープンな中で意思の疎通が図られ家族等の意見を汲み取った運営をしている。小規模ならではの対応の柔軟さが利用者や家族、ホームのより緊密な関係を作って利用者の暮らしに反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入して、地域の防犯パトロールの活動に参加している。不審者等の情報が逐一FAXで届いて注意を促すと同時に、ホームで万が一利用者が出て行った場合、地域に瞬時に協力をお願いできるシステムを日ごろから地域の住民と共に築き上げている。近隣住民は運営推進会議にも参加しており、庭の果実のやり取りなどもする間柄であり、利用者が地域で安心・安全な生活が送れるよう協力的である。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念「一つ屋根の下で 一緒に暮らしませんか」を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関や居間に掲示して職員の意識付けを図っている。理念に込められた管理者の思いは職員によく理解されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入して、地域の防犯パトロールの活動に参加している。不審者等の情報が逐一FAXで届いて注意を促すと同時にホームで万が一利用者が出て行った場合、地域に瞬時に協力をお願いできるシステムを日ごろから地域の住民と共に築き上げている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価を見直しの機会として捉え、職員と共に改善に繋がるよう取り組んでいる。前回評価時の改善項目、市町村との協働によるサービスの向上等前向きに活用している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者とその家族 地域包括支援センター 近隣住民 民生委員 介護相談員 在宅支援センター職員及び管理者をメンバーとして運営推進会議は2ヵ月ごとに定期的開催されている。参加者の話の中には沢山の知恵が盛り込まれており、それを利用者の暮らしに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の支援について市から依頼されたり、地域包括支援センターからの依頼で家族の会の見学を受けたりと行政と協力連携してサービスの向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームでは行事が多く、そのための連絡を含め家族や親族との関わりは深く、また利用者個々の支援について家族と相談しながら進めている。なかなか訪問できない家族には利用者の状態や日々の様子を郵送、或いは電話で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	すべての家族が出席しての家族会や運営推進会議を行っている。また、日常的に管理者及び職員は小まめに家族とコミュニケーションを取り、ひとつの家族としてオープンな中で意思の疎通が図られ家族等の意見を汲み取った運営をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者の思いに共感した職員による支援がされており、離職等による職員の交代は少ない。新しい職員には管理者自ら同行してホームの理念、個々の支援の方法等について理解してもらい職員が替わることによる利用者のダメージを出来るだけ防ぐよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社協が催す研修へ参加して、受講後は管理者を介して全員に内容を周知している。毎月25日には内部研修として勉強会を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会を立ち上げ、情報交換や勉強会等積極的に活用している。同じような理念を持つグループホームとの交流や大型介護施設とも必要に応じ連携してサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者には、ホームで共に過ごしたり食事をしたりする体験利用を勧めている。また、食事の介助等に家族も参加し利用者の不安を払拭するよう協力している。病院から入居する利用者には管理者が毎日通って信頼関係を築いてから安心して移れるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者それぞれの生活歴は暮らしの中で垣間見えることがあり、所作や言動に教えられたり感動があると管理者や職員から聞くことが出来た。唯一の男性利用者はホームの大黒柱的存在で現役時代のリーダーシップを発揮してホームのよき相談役となっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	顔を見て朝の挨拶をして、利用者の表情を読み取ることに努めている。筆談により会話をしていた利用者は、観察により実は声を出したいのではないかと推察され、職員・利用者が努力した結果言葉が出るようになった改善例もある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	業務日誌・日報には、メモのつもりで何でも記入することにしていて、全職員が必ず目を通して情報は共有している。日常的に職員間でも話し合っている。家族や医師、看護師等と連絡を密にし、また、介護相談員や包括支援センター職員の意見を参考にして利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとにモニタリングをしている。職員の意見や日報等で把握された利用者の状態を参考に本人・家族や場合によっては医師の意見を仰ぎ、話し合いの結果、必要に応じ随時及び定期的に見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が行けない場合の病院への付き添いに対応している。希望により鍼灸師の治療を受けることが出来る。一人暮らしの家族がホームで利用者と一緒に食事を摂れるよう快い対応がされていたり、美容師の家族がボランティアで整髪をして利用者に喜ばれている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員が協力医に受診しており、毎月往診していただいている。専門医や総合病院での受診も家族と協力しながら支援している。訪問看護師は協力医に報告を出しており、管理者も往診の前には様子の変化等を伝えその連携により適切な医療が受けられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針や同意書は準備されており、既に看取りに携わっている。協力医が家族へ説明し、家族の意向を確認している。訪問看護師に技術的な指導を受けながら職員は方針を共有して出来るだけ心地良く過ごしてもらえるように取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の利用者に対する言葉かけや接し方は自然体で問題は感じられない。食事介助やトイレの誘導もさり気なく行い、利用者一人ひとりのプライバシーに配慮した対応であった。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	少人数のホームのメリットが良く表れている。自由な起床時間や食事時間、また家族が食事介助に見えたり、温泉へ一風呂浴びに出かけたりと天候やその日の利用者の状態と相談しながら利用者の希望にそった暮らしを支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームでは食事の楽しみに重きを置いて、調理の得意な職員により美味しい食事が供されている。到来物等も食卓に乗り、季節感をみんなで賞味している。利用者の状態から職員は介助に回る事が多いが、話し声が飛び交って賑やかで明るい食事風景である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の希望によりいつでも対応できる。散歩で汗をかく利用者は毎日入浴している。車椅子利用者は職員二人体制で入浴しており、体調によっては清拭やシャワー浴等で清潔を保っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者個々の生活歴やADLの状態を見極めながら、掃除をしてもらったり、テレビや新聞の情報を他の利用者や職員に解かりやすく解説してもらおう等一人ひとりの力を活かしている。温泉や買い物、お墓参りなど家族と相談しながら気持ちを満たしてもらえよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ADLの低下により日常的に全員が散歩に出ることは困難になっているが出来るだけ車椅子の利用者も伴って出かけている。散歩が可能な利用者はボランティアの協力もあり、毎日周辺の山まで歩いている。行事としての外出の機会も多く、花見や温泉、ドライブ等家族も共に楽しんでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一般の家庭と同様に、日中は鍵をかけないことを当然のこととしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に防災訓練は実施しており、地元の消防団にも協力をお願いしている。消防署が検査に見えたときにその場で訓練を見ていただいたり、予告無し訓練等にも取り組んでいる。	○	定期的な防災訓練を行っているが、万が一の場合に備え、運営推進会議で地域住民の参加協力をお願いして避難訓練等への積極的な取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に応じておかゆや刻み食が用意されている。排泄や皮膚の状況を観察しながら医師の処方を受けて栄養食品を摂取している利用者もいる。食事の摂取量は記録し、常に飲み頃の水やお茶が出るサーバーを用意して水分摂取にも留意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手入れがされた庭には季節の実が彩り、軒には干し柿が吊る下がっている。民家そのままの建物の佇まいも温かく、玄関では利用者の可愛がっている犬が迎えてくれる。大きなテーブルを中心に居間は日当たり良く、利用者は日向ぼっこをしている。花を飾り、夏にはグリーンカーテンを設けるなどさりげなく季節を感じ取れるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームでの暮らしが長い利用者も多く、居室には筆筒や椅子、小さいテーブルなど使い慣れた家具が持ち込まれていた。かつて共に生活していた利用者が描いた絵が飾られ、また、いつもオープンにしている利用者の居室の入り口には暖簾をかけるなど個々に応じた居心地のよい部屋作りを心掛けている。		